

ラッシュ時 押され落ちそうに 荷物を手にベビーカー 怖い

「駅ホーム危険」半数

京の車いす利用者が市民アンケート

駅のホームに落下防止柵の設置を求めている京都の車いす利用者たちが、ホームの危険性について京都市内で市民を対象に街頭アンケートを行った。半数が「怖い」と訴えている。

「思いをしたことがある」と答え、幼い子どもを持つ母親や高齢者の不安の声も多く、「幅広い層が安全対策を望んでいる」と訴えている。

「安全確保対策を」



駅のホームの危険性について市民に呼び掛けたアンケート

(京都市中京区・市役所前)

日本自立生活センター(南区)の車いす利用者たちでつくる「すべての人に安全な駅ホーム設置を進める会」が、昨年12月にJR二条駅前と京都市役所前でアンケートした。

239人が回答。「地下鉄やJR、私鉄を利用中に危険な思いをされたことがありますか」との問いに「ある」と答えた人が半数の120人、「ない」は119人

人、「分からない」は17人だった。

「ある」と回答した人に具体的な状況を尋ねたところ、「疲れていた時に階段横の狭い場所でバランスを崩し落ちた」「ラッシュに押しされて落ちそうになった」などで、左京区の主婦(35)は「荷物を持ちながらベビーカーを押してホームを歩く時がとて怖い。安心して利用できるようになしてほしい」と話した。

宮川泰三代表(52)は「市民の多くがホームの安全性に疑問を感じている。行政や鉄道各社は対策への投資を惜しむべきではない」と訴える。

16日午前10時から南区の京都テルサで開くシンポジウムで詳しく報告する。メンバーがホームからの転落経験を話すほか、全国のホーム柵の設置状況についての講演もある。5000円。実行委員会 ☎075(671)8484。

(榊山聡)